

第3学年1組 国語科学習指導案

令和6年9月13日（金）4校時

指導者 (T1)

(T2)

学校司書

展開場所 3-1 教室

本校研究主題

主体的に学び考える生徒の育成

～知識・技能の確かな習得とICTの効果的な活用を目指した各教科の授業づくり～

1 単元名

和歌の調べ—いにしへの心と言葉を味わおう(教育出版「伝え合う言葉 中学国語3」)

㊦りたい和歌に表れた ㊧のの見方や ㊨んがえ方を ㊩まと比べる 鑑賞文

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、学習指導要領 第3学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」の指導事項エ「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」を中心に、同指導事項イ「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。」、〔知識及び技能〕(3)我が国の言語文化に関する事項ア「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」について指導する。

これらの指導事項を身に付けさせるための言語活動として、「万葉集」・「古今和歌集」・「新古今和歌集」の中から興味をもった和歌を選び、詠まれた状況や歴史的背景を踏まえて作者の心情を想像し、観賞文にまとめる活動を設定した。この活動は、学習指導要領における「読むこと」の言語活動例イ「詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」を参照した。「鑑賞文」とは、「鑑賞したことを文章に書くこと」を表したものである。「鑑賞」については、平成20年の『学習指導要領解説』に次のように述べられおり、参考にした。

「鑑賞」とは、表現の仕方、内包されている意思などについて、様々な角度から光を当てて、そのよさを見極めたり味わったりすることである。したがって「鑑賞したことを文章に書く」時には、対象や素材の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動について触れることが大切である。(『学習指導要領解説 国語編』 p34 平成20年)

本単元では、特に作者の思いやものの見方、そして作品から受けた印象について触れるように指導していきたい。作者について触れる際には、経歴や生きた時代についても調べながら考えを述べるよう指導する。言語活動の形式はタブレット端末を用いて授業支援ソフトを使用する。カードを5つに分け、①和歌、②現代語訳、③鑑賞文(300字から400字程度)、④参考資料、⑤まとめとする。調べる際には図書資料とインターネットを利用する。(図1)

①古今和歌集の和歌、作者、音読

下貝塚みのる

夏と秋と行きかふ空の通ひ道は
かたへ涼しき風や吹くらむ

凡河内躬恒



図1 言語活動の実際（教師見本）

カード①：和歌

-----（音読をデータとして添付する）

②現代語訳

夏と秋とがすれ違う空の通う道は、片側は涼しい秋の風がふいているのだろうか。

カード②：現代語訳

カード③：鑑賞文（400字程度）

カード③鑑賞文

古今和歌集の時代、空には天上世界など異空間への行き来をする通路があると考えられていた。作者は「空の上は、どうなっているのだろうか。夏と秋の境目の秋側は、涼しい風が吹いているのだろうか」と想像をふくらませているのだと思う。当時は人工衛星もなく、今のような天気予報もなかったから、季節はどうやって移り変わるのか不思議だったに違いない。

「涼しき風や吹くらむ（吹いているのだろうか）」と表現していることから、空の上の様子を想像していることと、まだ涼しい風は吹いていないことがうかがえる。まだまだ暑い日が続いているのだろうか。「早く秋の涼しい風が吹かないかな」と待ちわびている様子も伝わってくる。

この歌は「みな月のつごもりの日よめる」と詞書があり、立秋の前の日に詠まれた。現在の立秋は八月上旬。この歌の思いを今と照らし合わせると、暦の上では秋でも暑い日が続くので、作者もまだ暑い暑いと思いながら秋の訪れを待っているのだと思う。当時は今よりは涼しかったと思うが、涼しさを望む心は共感できる。

カード④参考資料

中島輝賢「ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 古今和歌集」KADOKAWA 令和4年

大岡信「現代語訳日本の古典3 古今集・新古今集」学研 1985年

小倉山荘 <https://ogurasansou.jp.net/columns/arakaruta/2018/01/17/2269/>

カード④：参考資料

読むことエは「考えの形成」「共有」の指導事項である。現行の『学習指導要領解説』では、次のように示されている。

人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつとは、様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えをもつことである。「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことや評価したことなどを結び付けて自分の考えを明確にもち、文章に表れているものの見方や考え方と比べたり、他者の考えと比べたりすることによって、自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。義務教育修了段階として、社会生活の中の様々な事象について、より広い視野をもって自分の意見を形成することができるようにすることが重要である。
(『学習指導要領解説 国語編』 p128-129 平成29年)

「人間、社会、自然」のうち、本単元では主に「人間と自然」を扱う。「万葉集」の歌は自然や人間に対する心情を素直でおおらかに歌ったもの、「古今和歌集」の歌は四季の風物や人間の感情をやさしく歌ったもの、「新古今和歌集」の歌は自然の美しさや繊細な心情を歌ったものが特徴となっており、人間や自然について考えることに適していると考え。和歌そのものや、和歌を解説した文章、その時代のことが書かれている図書資料など様々な文章を読むことを通して、古人がどのように人の思いや自然について考えてきたのか、そしてそれが現代の人の考え方とどのようにつながっていくのかを考える学習活動を通して本指導事項を身に付けさせたいと考える。

カード⑤和歌を鑑賞し、人間や自然について考えたこと

皆の鑑賞文を読んで思ったことは、日本の人々は季節の移り変わりに敏感だということ、人の根本は昔も今も変わらないということだ。私は古今和歌集の「夏と秋」が行きかう歌を鑑賞した。沢谷さんが鑑賞した万葉集の和歌「春過ぎて…」は夏の到来を感じる歌だった。奈良時代も平安時代も人は季節の変わり目に注目している。

今の時代で夏の到来を感じる歌といえば「青と夏」がある。表現する形は違っても、季節や人の気持ちを歌に込める活動は1000年以上続いているんだとわかった。他にも、誰かに恋したり、子供がかわいかったり、人が来なくて寂しかったり、いろんな気持ちが歌になって届けられていた。今でも共感できることがたくさんあることに気づき、昔の人に親近感がわいた。

図2 5時間目を想定した言語活動（教師作成）

読むことイは、「精査・解釈」の指導事項である。

文章を批判的に読むとは、文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく、文章を対象化して、吟味したり検討したりしながら読むことである。

説明的な文章では、例えば、文章中で述べられている主張と根拠との関係が適切か、根拠は確かなものであるかどうかなど、述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読むことが求められる。その上で、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考えることが重要である。

文学的な文章においても、例えば、登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認したりするなど、批判的に読むことが重要である。

(p127-128)

本単元は、和歌とその解説した資料を扱うため、「資料をよく吟味、検討すること」や「和歌に表れている古人のものの見方や考え方について、現代の自分の知識や経験などと照らし合わせて、納得や共感ができるか否かなどを考えさせたい。

我が国の言語文化に関する事項アは「伝統的な言語文化」（古典）に関する指導事項である。

古典作品には、その背景となる歴史的な状況が存在する。それを踏まえた上で古典を読むことで、作品の世界をより深く、広く理解することが可能になる。また、舞台となっている時代の様子や作者が置かれていた状況などを知ることで、作品の世界をより実感的、具体的に捉えることもできる。歴史的背景については、作品の理解に役立つ事柄を精選して取り上げるようにすることが必要である。例えば、作品を解説した文章や映像メディアなどを活用することなどが考えられる。なお、作品の歴史的背景などを扱うのは、教材として取り上げた古典の世界

への興味・関心を高めたり、内容の理解を助けたりするためであることに留意する必要がある。(p109-110)

これを受けて「作品の理解に役立つ事柄を精選して取り上げるよう」な工夫をする。

一つ目は授業支援ソフトには作者のことがわかるURLを提示すること(図3)、二つ目は学校司書と連携して、三つの歌集の時代のことがわかる図書資料を用意することである。また、生徒の必要に応じて和歌集の紹介動画を見せるなどして、作品やその時代の理解に役立てたい。

図3 作者(歌人)のことがわかるURL



単元の構成は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、千葉県教育委員会が作成した「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の①見いだす、②自分で取り組む、③広げ深める、④まとめあげるの4つの過程を意識して行う。

初めに、①見いだすの過程では、教師が作成した見本(以下、「教師見本」とする)図1(p2)を示し、どのような活動を行うのか理解させる。和歌を鑑賞することを通して、当時の人のものの見方や考え方について読み、自分の考えを形成する学習であること、和歌の世界に親しむ学習であることを確認する。授業の中では、どのようにしたらこの学習ができるか、大まかな活動計画を考えさせる。和歌の内容を理解するとともに、その時代への理解が必要であることに気づかせたい。あわせて図書資料やインターネットの情報を活用しながら、自分の知りたい和歌が詠まれた時代背景や人々の暮らしも踏まえて考えることを伝えたい。また同じ和歌や歌集を選んだ友達や、違う歌集を選んだ友達と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする学習であることを確認する。教科書に掲載された3つの歌集と計15首の和歌について大まかな内容を説明する。掲載された作者は変えず、和歌を一部変える予定である。(例:大伴家持「春の野に…」の歌を「新たしき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」へ)

次に、②自分で取り組むの過程では、①で決めた和歌について調べ鑑賞文を書かせる。生徒は各自でインターネットや図書資料を使って調べ、ノートや情報カードに整理していく。その際、学校司書の協力を得て、目次や索引の見方、出典の書き方の復習指導をする。和歌に親しむために音読も重視し、自分が読み方やリズムを覚えるため、友達に紹介するために音声を録音する作業も取り入れる。

そして、③広げ深めるの過程では、出来上がった鑑賞文を交流し、感想やその時代、その歌への考え方を伝え合わせる。友達と交流することで広がった考えをまとめさせる。和歌や時代が違って共通する点、相違点に気づかせ、自分の考えと比べる学習過程を大事にしたい。

最後に、④まとめあげるの過程では、学んだことをまとめ、新たな興味や疑問を引き出させる。最後に身に付いた力について振り返らせる。「考えの形成(読むこと)」や「古典の親しみ方や学習する意味」について身に付けた力を生徒が自覚し、今後に生かすことができるようにさせたい。

(2) 生徒の実態 (35名)

①令和6年度全国学力・学習状況調査から (令和6年4月)

短歌の内容について、描写をもとにとらえることができるかどうかをみる問題が出題された。

問題

田中さんは、AからCまでの短歌によまれている情景の時間帯が異なることに気付きました。一線部①、②、③に着目して、夕方から翌朝へとという時間の流れに沿って順番に並べ替えるとどのようになりますか。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

(正答 B→A→C)

全国平均正答率48.5%

半数以上の生徒が、短歌の内容について、描写を基に捉えることに課題がある結果となった。

誤答の中では、特にC→B→Aと回答している生徒が多かった (全国平均正答率は23.7%)。いつの情景であるかを適切にとらえることができていないものであることも考えられる。また、朝から夜へとという一般的な時間の流れに沿って順番に並べ替えたものと考えられる。日頃の生徒の様子と照らし合わせてみると後者の生徒が多かったと予想され、書かれている内容を注意深く読んでいない実態が明らかになった。

テーマ：月と風景

【ノートの一部】

A まどかなる黄月はいま昇りつつひとたび暮れし雪野を照らす
(意味) まるい様子の 暮れた 長澤一作

B 風さやか庭に月待つ萩すすき 潮の声やみし夕暮れ
(意味) 滑らかな様子 やんだ 外蘭隆

C 朝光のひろびろしきに昨の夜のつきかげありしあたりを掃きぬ
(意味) 広々と(差)している(ところ) 昨日の夜 月の光 あった 掃いた 森岡貞香

4

田中さんは、国語の時間に、テーマを決めて短歌を集め、友達に紹介するための資料を作っています。次は、田中さんの「ノートの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

②和歌（短歌）を鑑賞することの実態（令和6年2月）

短歌を鑑賞する学習は、昨年度2学年の時に行っている。指導事項は読むことイ「内容の解釈」を中心に「情景や心情を掘り起こして」鑑賞文にまとめる学習を行った。（図4）

図4 生徒作品（R6.2）

<p>不來方のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心 石川 啄木 夏近い春の日の届に一人の少年が不來方のお城近くの草原に寝ころんでいる。なぜ不來方のお城にしたのかは、悩み多き十代が人が來ない場所（不來方、來ない）、少しの間だけでも悩みや考え事から解放されている様子を表しているように思えた。空に吸はれしという表現は学生はいつも寝んでばかりで下を向いていたり勉強していても机に向かっていたりして周りなど見ていない、でも息抜きで寝ころび空を見上げると青く広大な空が見えて狭まっていた視界が広がって空に融かされている様子を表していると思った。</p>	<p>あゝ皐月仏蘭西の野は火の色す君も誰憐愛われも誰憐愛 与謝野 晶子 この短歌は五月にフランスに訪れたときに野原や花畑に行ったときに火の色と書いてあったから暖色系で暖かい日や雰囲気にしたかったから火の色や皐月（五月）にしたんだと思う。ヒナゲシをコクリコにしたのは対句の表現や対比、リズム感などをつけたかったからと、コクリコのほうが可愛らしい感じになると思うから。誰憐愛には心の平穏という意味があってフランスに行って野を見たときの様子やお互いの感情を花に例えたいと思ったんじゃないかなと思った。最後七七となるようにリズム感の良いのにしたかったからだと思う。</p>
---	--

扱った短歌が近現代のため、難しい言葉はあるものの情景を想像しやすいものが多かった。「学習全体のめあて」の一つに「日本で1300年も続く短歌の魅力は何かを考える」ことを設定し、以下のような振り返りが見られた。

少なく限られた文字数で物語を作るから、自分なりに解釈できて人それぞれの楽しみ方があることが魅力だと思う。作者によって表現の違いがあってまた違った楽しみ方がある。読む側も書く側もそれぞれ個性が出るのが魅力だと思う。

時間や環境を超えて新しく気が付いたり、共感できたりするのが短歌の魅力だと思った。長い文章ではないから、分からないところも多い。だからこそ、どんな意味なのか読む人の捉え方によって物語が変わるのが短歌の面白いところだと思った。

③古典を学習することの実態（令和5年11月）

2学年で「随筆の味わい」を学習し、清少納言や兼好法師のものの見方や考え方を学習した際、学習のまとめとして「私たちはなぜ古典を学習するのか」について投げかけ、次のような回答があった。

- ・昔の作品でも、現代に通ずる考え方や見方があるから。
- ・昔の人の考えや生活、知識を学ぶため今と昔の違いを知るため。
- ・同じ失敗をしないため。考え方や昔の書物から学びや知恵を得るため。
- ・古典を読むことで、その時代の人間や社会、自然に対する考え方を理解できるから。
- ・先人の考えや知恵を学ぶため。その時の時代ではどのような生活をしていてどのような考え方だったのかなどを知るため。

（3）指導観

学力・学習状況調査の結果からは短歌の情景を適切に読めている生徒、問題文を正確に読めている生徒が少ない実態が明らかになった。短歌の鑑賞の授業における実態からは語句から情景を広げて読み、それぞれが短歌の鑑賞を楽しんだことがうかがえた。本単元は近現代の短歌と比べて時代が大きくさかのぼるため、歴史的背景を踏まえて丁寧に歌を解釈し、鑑賞することが必要となる。そのため、現代語訳や和歌を解説した本、さらに前述したように作者やその時代のことがわかる図書資料や電子資料（URL, p4）を用意したい。

古典を学習することについては、肯定的にとらえている生徒がほとんどである。しかし、本学級においては、現代語訳を十分に使って内容を理解させることが必要である。伝統的な言語文化第2学年の指導事項イにあるように「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読む」ことを継続

して取り入れていきたい。その際には隅に書かれた語注も見落とさずに読むことに注意させたい。学習指導要領解説（p83）には、「音読や暗唱を効果的に取り入れること」も示されている。五七五七七のリズムを体得することも併せて、作品に生徒が音読した音声データも入れることとしたい。

また、図書資料を活用するにあたっての指導、支援は生徒が1学年の時から行っており、本單元においても学校司書と連携し行う予定である。

- ・図書資料の説明（本の種類について）
- ・目次、索引の活用の仕方の支援

※本單元では和歌の本特有の「初句索引」に触れる

- ・情報カードの書き方の支援

④学習状況の記録（主体的に学習に取り組む態度）

図5は、見通しをもつ段階、学びを調整する段階、学習を振り返る段階で、個人の学習状況を記入させるカードである。「主体的に学習に取り組む態度」は粘り強い取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を評価することが求められている。本單元全体のめあてや、この段階で何を書いてほしいかを示すことで、生徒自身も的確に学習を振り返ることができ、教師も「粘り強い取組や学習を調整する態度」を見ることができると考える。本單元では「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の①見いだす、②自分で取り組む、③広げ深める、④まとめあげるの4つの過程のうち、①を1時間目に、②を4時間目（本時）に、④を6時間目に書かせて評価を行う。なお③広げ深めるの過程では、読むことのエについて評価を行う。

<合理的配慮の提供>

本学級には、全体へ向けた口頭での説明を理解するのが難しい生徒がいる。板書や教師見本で活動内容を明示する他、この生徒に対しては、作業の時間に個別にわからないことは何かを確認し、説明を行う。また、作業内容が目で見えるようにするとわかることがあるので、様子を見ながら必要に応じて提示する。生徒のつまずき具合に応じて、T2と連携して指導にあたりたい。

図5 学びの3段階シート(授業支援ソフト)

單元名

和歌の調べ

—いにしへの心と言葉を味わおう

全体のめあて

- ・歴史的背景に注意して読み、和歌の世界に親しもう
- ・和歌や資料から古人のものの見方や考え方について考えよう
- ・和歌や鑑賞文を読み合って人間や自然について考えよう

学びの3段階「はじめ」見いだす

- ・今日の学習でわかったこと
- ・和歌の鑑賞を学習することはどんな意味があるか
- ・学習全体のめあてを知って、できるようになりたいことは何か

学びの3段階「なか」自分で取り組む

- ・今日までの学習でわかったこと
- ・歴史的背景に注意して和歌を読んでみてどうだったか
- ・人の思いや自然について考えることはできたか

※「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」③広げ深めるの段階は「読むことのエ」について評価する。

学びの3段階「おわり」まとめあげる

- ・和歌の鑑賞を学習することはどんな意味があったか
- ・学習全体のめあてを知って、できるようになったことは何か
- ・古典を学習するのは何のためか

<研究主題とのかかわり>

①「ちばっ子の学び変革」推進事業「思いや考えを明確に伝える国語科の学習指導」

本単元では、思いや考えを明確に伝える生徒を育成するために、研究仮説にある「文章を書く時のポイント」を指導する場面を中心とした少人数指導を導入する。T1とT2、T1と学校司書が連携し、必要なところで必要な支援を提供できるよう、生徒の観察を通して、個別の支援を与える。また、単元の中で、タブレット端末と併用してノートへの記述の機会を設定したり、生徒と生徒、教師と生徒同士で対話をしたりすることで、自分の考えを明確にさせたいと考えている。

②本校研究主題「主体的に学び考える生徒の育成

～知識・技能の確かな習得とICTの効果的な活用を目指した各教科の授業づくり～

本単元では、知識・技能の確かな習得のために和歌の音読を重視し、歴史的背景に注意して読めるような資料を提供する。資料については図書資料と、電子資料（インターネット）を活用させる。二種類の資料を併用する活動は1学年から継続して行っている。

ICTの効果的な活用については授業支援ソフトを活用する（図4）。本単元でICTを使う利点は、①音読の音声を入力できること、②生徒が作成したカードをつなげて一つの作品にできること、③WEB上で作品を提出し、同時に全員が全員の作品を見ることができること、④自分の座席にしながら作品の交流ができることなどがあげられる。今回は「提出BOX」を「万葉集の部屋」、「古今和歌集の部屋」、「新古今和歌集の部屋」に分け、まずは同じ和歌集を選んだ生徒同士が交流できるように工夫した。

（図5, p9）

図4 授業支援ソフトの画面





図5 授業支援ソフト 提出BOX

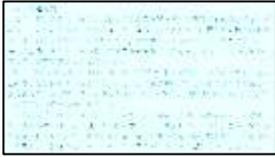
3 単元の目標

- (1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
[知識及び技能] (3) ア
- (2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) イ
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して和歌を読むことを通して、その世界に親しんでいる。	①「読むこと」において、和歌や解説資料を吟味したり検討したりして読みながら、和歌に表れているものの見方や考え方について考えている。 C (1) イ ②「読むこと」において、和歌や解説資料、鑑賞文を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 C (1) エ	①進んで知りたい和歌を決めてものの見方や考え方を鑑賞文にまとめ、現代の人々のものの見方や考え方と比べようとしている。

5 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時間	ねらい 学習活動	・指導のポイント ◎必要な支援	☆評価規準 [] と (評価方法)
一 見 い だ す	1	<p>【全体】教科書 p126を読み、「三つの和歌集の中から和歌を一つ選び鑑賞文をまとめる」活動を知り、教師見本を見る。</p> <p>和歌を鑑賞するにはどんなことが必要か。(学習の見通しをもとう)</p> <p>【全体】鑑賞文作品の構成を知り、学習の全体の見通しを持つ。</p> <p>【全体】三大和歌集の特徴を知る。</p> <p>【個人】本時のまとめを学びの3段階シート(1)に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師見本 (p2) を提示する。 昨年度の短歌鑑賞の学習とどこが違うか、どうしたら見本のような鑑賞文ができるか、学習過程を考えさせる。 単元の見通しを示す。 和歌集の紹介動画は必要に応じて見させる。 	<p>☆[主体的に学習に取り組む態度]① 学びの3段階シート、<u>観察</u></p> <p>※6時間目が終わった後にまとめて評価する。</p>
	2	<p>【全体】主要8首を中心に15首の和歌と現代語訳を知り、音読をする。</p> <p>三つの和歌集にはどのような歌があるか。もっと知りたい一首はどれか。</p> <p>【個人】もっと知りたい和歌を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書以外の和歌でも(百人一首など)三つの歌集に入っているものならよいとする。 ◎選ぶことが難しい生徒を含め、全員が活用できる冊子を用意する。p14-18 	
二 自 分 で 取 り 組 む	3	<p>知りたい和歌に表れたものの見方や考え方を鑑賞文にまとめよう。</p> <p>【全体】学習内容を確認する。</p> <p>【個人】インターネットサイトと図書資料を見ながら調べたことをノートにまとめる。</p> <p><調べる内容></p> <p>A 和歌の読み方(音読)</p> <p>B 和歌の意味(現代語訳)</p> <p>C 作者の情報</p> <p>D 読まれた時代の情報</p> <p>【個人】授業支援ソフトに入力する。</p> <p>・カード①…和歌 (A) 音声 </p> <p>・カード②…現代語訳 (B) </p> <p>・カード③…鑑賞文 (C+D+自分の考え) </p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて情報カード(p14)を活用させる。 ◎一緒に音読し、読み方を教科書等にメモさせる。 学校司書が図書資料の活用の仕方について指導する。(初句索引、奥付の見方など) 図書資料と電子資料(インターネット)、複数の資料を調べることを伝える。 和歌の解釈が載っている資料のほかに、その時代がわかる本や、社会科の教科書、資料集を活用するように助言する。 ※歴史の教科書を持参させる。 	<p>☆[知識・技能]① <u>ノート、作品</u></p> <p>ここでは、歴史的背景などに注意して和歌を読むことを通して、和歌の世界に親しんでいるかを確認する。</p> <p>※資料を読み歴史的背景を踏まえているか、それがノートや作品に現れているかを確認する。</p>

4 本時	<p>(3時間目の続きを行う)</p> <p>【4人】自分の選んだ歌集と歌人、どこまで調べたか、完成までにどんなことが必要かを報告する。</p> <p>【個人】 主にカード③を進め、完成させる。 <必要なこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌が詠まれた時代のこと ・現代語訳を理解し自分で考えたこと ・作者の置かれた状況(いつ、どこで、どんな状況で詠んだか) ・作者は人や自然に対してどう思っているか ・これらのことについて自分はどうか考えるか <p>【個人】本時のまとめを学びの3段階シート(2)に書く。作品は提出BOXに送る。</p> <p>【全体】本時のまとめを共有する。</p>	<p>※選んだ和歌の結果を見て同じ歌集、同じ和歌を選んだ人同士でグループを組むことを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の進捗状況を明確にするための報告を行う。 <p>◎選んだ和歌に必要な資料を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード④(参考資料)は、作品の提出時までに入力できれば良いとする。 	<p>☆[思考・判断・表現]① カード3(鑑賞文) ここでは和歌や解説資料を吟味したり検討したりして読みながら、和歌に表れているものの見方や考え方について考えているかを確認する。(1)イ</p>
III 広げ 深める	<p>鑑賞文を読みあい、「人の思い」や「自然」について考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>【全体】学習内容を確認する。</p> <p>【個人】友達の作品を読みあい、コメントを送る。</p> <p>【4人】どんなコメントを送ったかを伝え合う。</p> <p>【個人】カード⑤に「人の思い」や「自然」についての考えたことをまとめる。</p> <p>【全体】全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主に「古人の思い」や「自然」、「季節感」について書いたところに触れ、コメントを送るようになる。 ・自分の考えと友達の考えを比較する。共通点や相違点、自分にはなかった考えに着目して、さらにどう思うかを考えさせる。 	<p>☆[思考・判断・表現]② カード5 ここでは和歌や解説資料、鑑賞文を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっているかを確認する。(1)エ</p>
四 まとめ あげる	<p>【個人】カード④に参考資料を書く。</p> <p>和歌の表現技法(修辞)を学び、学習のまとめをしよう。</p> <p>【全体】和歌の修辞を学ぶ。 教科書p133の枕詞、序詞、掛詞、句切れについて、学んだ和歌を思い出しながら確認する。</p> <p>【全体】音読をする。 歴史的仮名遣いや和歌の句切れとリズムを意識しながら音読の復習をする。</p> <p>【個人】本学習のまとめを学びの3段階シート(3)に書く。</p> <p>【全体】この学習で身に付いた力を振り返り、和歌の世界に親しんだことや古典を学習する意味ことを実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度学習計画や学習目標を確認させる。 	<p>☆[主体的に学習に取り組む態度]① (1、4、5、6時間目) <u>学びの3段階シート、観察</u> ここでは、進んで知りたい和歌を決めてものの見方や考え方を鑑賞文にまとめ、現代の人々のものの見方や考え方と比べようとしていくかを確認する。</p>

6 本時の指導 (4/6)

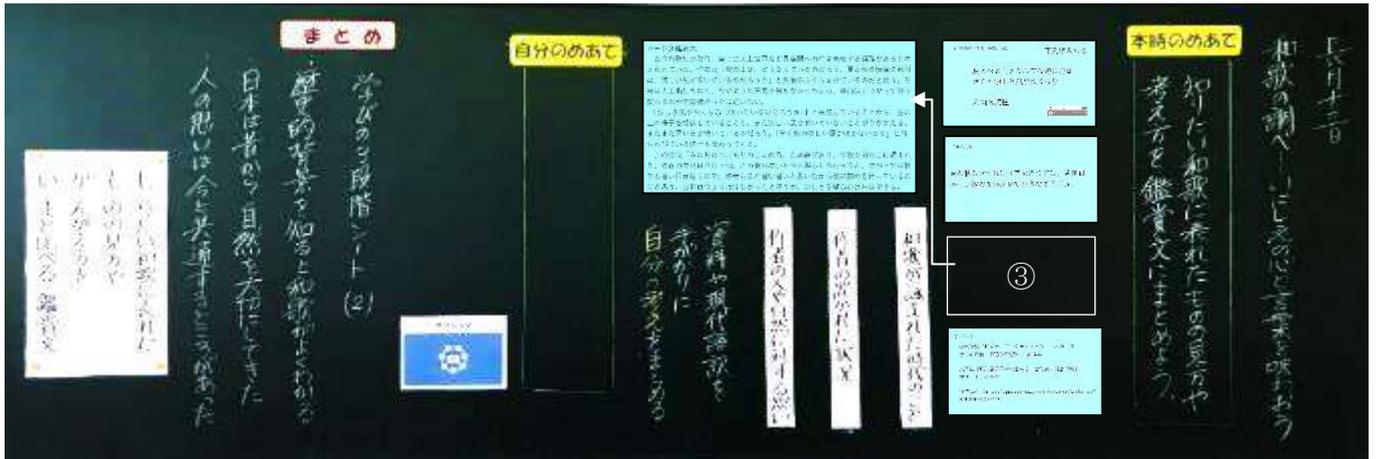
(1) 目標

和歌や解説資料を吟味したり検討したりして読みながら、当時の人のものの見方や考え方について考えている。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) イ

(2) 展開

時配	学習活動 と 生徒の反応	指導のポイント (・) 評価規準 (☆) [] (評価方法) 必要な支援 (◎)
5分	(3時間目の続きを行う) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">知りたい和歌に表れたものの見方や考え方を鑑賞文にまとめよう。</div> 【全体】学習内容を確認する。 A 和歌の読み方(音読)→カード①へ B 和歌の意味(現代語訳)→カード②へ C 作者の情報 D 詠まれた時代の情報 (C+D+自分の考え)→カード③へ	・図書資料と電子資料(インターネット)、複数の資料を調べることを伝える。 ・和歌の解釈が載っている資料の他に、その時代がわかる本や、社会科の教科書、資料集を活用するよう助言する。 ※歴史の教科書には、その時代の暮らしがわかるイラストページが見開きで掲載されている。
5	【4人】自分の選んだ歌集と歌人、どこまで調べたか、完成までにどんなことが必要かを報告する。 ・万葉集の「君待つと」の和歌にしました。額田王が詠んだ恋の歌なんだけど、「実際とは関係ない」って本にあって迷っています。でも額田王はもてたそうなので実際にあったことだと思うからそれを書きます。 ・私も額田王にしたよ。この本には…と書いてあったよ。	◎授業支援ソフトで作成中カードが準備されているかを確認する(T2) ・自分の進捗状況を明確にするための報告を行う。
5	【全体】カード③を進めることを確認する。 <カード③に必要なこと> ・和歌が詠まれた時代のこと(現代語訳を理解し自分で考えたこと) ・作者の置かれた状況(いつ、どこで、どんな状況で詠んだか) ・作者は人や自然に対してどう思っているか ・これらのことについて自分はどうか考えるか	◎選んだ和歌に必要な資料を提供する。(T1、T2、学校司書) ・カード4(参考資料)は、作品の提出時までに入力できれば良いとする。
20	【個人】カード③に鑑賞文をまとめる。 ・他の本にはどのように書いてあるかな。 ・好きな人が来るのを今か今かと待っている感じが伝わってくる。本当に来たのかな。	☆和歌や解説資料を吟味したり検討したりして読みながら、和歌に表れているものの見方や考え方について考えている。 C(1)イ [カード③(鑑賞文)]
10	【個人】本時のまとめを学びの3段階シート(2)を書く。作品は提出BOXに送る。 ・歴史的背景を知ると和歌のことがよく分かった。 ・人の思いは今と共通するところがあった。	※鑑賞文(カード③)の完成を優先させる。作業の状況に応じて次時に見送る。
5	【全体】本時のまとめを共有する。 ・作品が完成した。他の人はどの歌集を調べたのだろう。同じ和歌を選んだ人はどのくらいいるかな。次回読もう。	・何人かのまとめを共有し、次時の見通しをもたせる。

(3) 板書計画



【参考資料】

- ・「中学校学習指導要領解説国語編」 文部科学省 平成29年6月
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校 国語】」 国立教育政策研究所 令和2年6月
- ・教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

・使用を検討している本校学校図書館の蔵書

1	日本の古典をよむ[万葉集](4)	小島/憲之 校訂・訳	小学館	918/ニ/4	2008.4
2	万葉集[美しき“やまとうた”の世界] <ビジュアル版日本の古典に親しむ>(3)	池田/彌三郎 [著]	世界文化社	911/イ	2006.1
3	<必携>万葉集を読むための基礎百科[「万葉集」がわかる、面白くなる。]	神野志/隆光 編	学灯社	911/コ	2003.5
4	教科書の絵と写真で見る日本の歴史資料集[奈良時代～平安時代](2)	宮原/武夫 監修	岩崎書店	210/ミ/2	2002.4
5	万葉集入門 <岩波ジュニア新書>(414)	鈴木/日出男 著	岩波書店	911/ス	2002.1
6	万葉集を歩く 大和、近江、難波、紀伊万葉ゆかりの地へ		JTB	911/ま	2001.9
7	21世紀によむ日本の古典[万葉集](2)	古橋/信孝 [訳]著	ポプラ社	918/ニ/2	2001.4
8	日本古典のすすめ <岩波ジュニア新書>(325)	岩波書店編集部 編	岩波書店	910/ニ	1999.6
9	絵や写真で調べる日本の文化の歴史[日本人は人間をどのように表現してきたのだろうか](3)	PHP 研究所 編	PHP 研究所	210/エ/3	1998.9
10	万葉集響き合う心の世界—愛と死、旅と人生、自然へのまなざしあるすぶつくす		婦人画報社	911/マ	Nov-95
11	目でみる日本の詩歌[ジュニア版][古典和歌](1)	岡野/弘彦 著	TBS ブリタニカ	911/メ/1	1982.4
12	現代語訳 日本の古典[万葉集](2)	山本/健吉 訳	学研	918/ゲ/2	1980.7
13	万葉のうた	大原/富枝 文	童心社	911/オ	1980
14	日本の古典をよむ[古今和歌集](5)	小沢/正夫 校訂・訳	小学館	918/ニ/5	2008.9
15	日本の文学 <ポプラディア情報館>	西本/鶏介 監修	ポプラ社	910/ニ	2008.3
16	古今和歌集 <角川ソフィア文庫>(A2-1)	中島輝賢 編	KADOKAWA	911/コ	2007.4
17	新古今和歌集 <角川ソフィア文庫>(A2-8)	小林大輔 編	KADOKAWA	911/シ	2007.1
18	目でみる日本の詩歌[ジュニア版][古典和歌](2)	岡野/弘彦 著	TBS ブリタニカ	911/メ/2	1982.4
19	現代語訳 日本の古典[古今集 新古今集](3)	大岡/信 訳	学研	918/ゲ/3	1981.3
20	教科書の絵と写真で見る日本の歴史資料集[奈良時代～平安時代](2)	宮原/武夫 監修	岩崎書店	210/ミ/2	2002.4
21	地図でみる日本の歴史[飛鳥・奈良・平安時代](2)	竹内/誠 総監修	フレーベル館	210	2000.9
22	飛鳥・奈良時代 <岩波ジュニア新書>(332)	吉田/孝 著	岩波書店	210/よ	1999.1
23	歴史見学にやくだつ遺跡と人物[飛鳥・奈良・平安時代の遺跡と人物](3)	加藤/章 監修	ポプラ社	210/か/3	1992.4
24	日本の歴史[見る・読む・わかる][原始・古代](1)		朝日新聞社	210/に/1	1992.11
25	図説学習日本の歴史[貴族の世の中](2) 改訂新版	和歌森/太郎 監修	旺文社	210/ワ/2	1990.4
26	人物と文化遺産で語る日本の歴史[ジュニア版][大和の朝廷の国づくり](2)	古川/清行 著	みずうみ書房	210	1981.6

